

令和7年度 長崎市自然環境調査報告書：両生・爬虫・哺乳類

長崎市自然環境調査委員 松尾 公則

1. 相川湿地の整備や野外観察会

例年通り湿地の整備、産卵数の確認、野外実習を実施しました。

1－（１）相川湿地整備

今年度は、6つの団体をお願いして**湿地整備**を行いました。

整備内容は、10枚ある湿地の3枚に水路を掘り全体的に水がいきわたるようにすることです。

実施日：令和7年12月13日（土） 9:00～12:30（午後の作業は雨のため中止）

参加者：総勢48名・・・松尾（担当者1名）

長崎大学教育学部3年生理科専攻（大庭准教授以下9名）

時津幼稚園先生方（別所園長先生以下5名）

NPO法人環境保全教育研究所（8名）

九州電力長崎支社（3名）セブンイレブン財団及び社員（21名）

長崎市役所（1名）

※ 相川町自治会（10名）・・・12月初めに草刈りを実施してもらいました。

① 作業中のようす（12月14日）：9:00～15:00・・・全員で湿地全体に水路を掘る作業



湿地全体の作業風景



時津幼稚園の先生による作業

② 作業後の湿地のようす（川から水を引き込んだ）・・・観察場所とする7番田

整備前の7番田（草刈り済み）



整備後の7番田



整備後に水を入れた7番田



③ 作業後全員で記念撮影と作業後の湿地全体の写真



1－（2）ニホンアカガエルの産卵

整備作業した後の水域には、例年通りにニホンアカガエルが産卵しました。例年であると12月下旬から1月の初旬に最初の産卵が見られます。しかし、今年は産卵時期が早くなり12月21日に最初の卵塊が確認されました。昨年が12月31日だったので約10日早くなりました。そして、12月中に91卵塊を確認することができました。この10年くらいで最も早い産卵です。年が明けても産卵は続き1月末には約400卵塊でした。1月末から2月初旬にかけては寒波の影響で少しの産卵でしたが、2月10日付近の温かい雨により、新しく約400卵塊が産卵されました。今年の産卵のピークは1月中旬と2月10日ごろの2回となり、総産卵数は約800卵塊と考えられます。一昨年在約700、昨年在約500、今年が約800なので、年による変動が多少はあるものの安定した産卵数が保たれていると思われます。

カスミサンショウウオについては例年より遅くなり、ピークは2月中旬以降になりました。湿地内でも多少の卵塊は見られますが、森林内の整備した場所にはたくさんの成体が集まり産卵します。今年は、卵回数は数えていませんが、昨年度は約50卵塊ほどあったので、今年も同じくらいの産卵が見られると思います。

今年も、昨年に引き続き、オタマジャクシを幼体まで育てるということを実施しています。今年、6卵塊の約4000個体の飼育です。

① 今年度、産卵された卵塊

最初の卵塊（12月21日）



令和7年12月27日撮影



令和8年1月15日撮影



1－（3）野外実習

今年度は下記の4団体で野外実習を実施しました。

① 令和8年2月4日（水）

長崎女子短大幼児教育科松尾ゼミ学生3名

オタマジャクシの飼育は経験しているが、初めて見るたくさんの卵塊群に大喜びでした。



② 令和8年2月6日（金） 時津幼稚園年長組 引率者：7名 園児41名

前日のカエルの学習後、本物を体感するために実施しました。実施に際しては相川町自治会8名にも協力を依頼し、湿地内で事故が起こらないようにしました。なお、この日は、NHKの取材もあり、2月12日の「ぎゅっと 長崎」で観察会の園児のようすが放映されました。10:30からの約1時間、園児たちは喜んで卵塊に触れ、湿地の中を元気に走り回っていました。大きな歓声や喜んでいる姿を見ることができました。一年間、自治会の人とともに保全をしてよかったと思える瞬間でした。



③ 令和8年2月7日（土） 長崎大学教育学部3年中理学生（学生教諭8名）

中学校や高校の理科の教員を目指している学生たちです。ほとんどがカエルやサンショウウオの卵塊を初めて見たということで、その卵塊の感触も楽しんでいました。ニホンアカガエルの飼育を試みたいということで、1個の卵塊を持ち帰りました。変態するまで飼育した後、この湿地に戻しに来たいとのことでした。



- ④ 令和8年2月14日(土) NPO法人環境保全教育研究所(へんちくりん)主催
へんちくりん関係者約10名、セブンイレブン関係者約40名、相川町自治会7名
長崎市役所4名

セブンイレブン関係者は、イノシシ除けの柵の設置が中心でしたが、グループごとにニホンアカガエルやカスミサンショウウオの卵塊や成体について説明しました。イノシシの被害が大きいいためその対策の作業をしてもらいましたが、その意義については十分に理解していただけたと思います。2組の家族(子供は2人)は卵塊や成体との触れ合いを楽しく学んでいました。



1-(4). ニホンアカガエル人工増殖の取り組み

相川湿地でのニホンアカガエルの産卵数は年々減少していました。減少の理由は、幼生が育っていないことが大きいと思われます。特に、卵塊からふ化した直後の死亡率が高くなっているようです。そのため、5年前からニホンアカガエルの幼生飼育を行っています。人工的な容器で幼生を育て、飼育後に成長した幼生または幼体を湿地に放すという取り組みです。令和4年松尾一人から始めた取り組みは、現在では、時津幼稚園、相川町自治会、長崎大学教育学部、長崎総合科学大学と広がっています。令和8年の今年も同様に飼育を試みています。3月末現在、松尾は、約4000匹の幼生を飼育しているところです。他の協力者も加えるともっと多くの飼育数になります。5月の変態ごろに相川湿地に放流予定です。このような取り組みにより産卵数は増加しています。産卵数は、令和5年は300卵塊、令和6年は700卵塊、令和7年は500卵塊、令和8年は800卵塊でした。

下の写真は、自宅で飼育しているニホンアカガエルのようすを撮影したものです。①は自宅のプラ船に採集したばかりの卵塊を入れた状態です。②③はふ化した幼生にエサを与え始めたころの状態です。

① 2026年1月14日撮影



② 2026年3月3日撮影



③ 2026年3月3日撮影



2. 相川湿地以外の調査結果

毎月一カ所の地点を決め、歩きまわりながら目撃できる両生類・爬虫類・哺乳類を調査しています。

2-1(1) 相川湿地、世界遺産上大野地区の水場（4月）

4月9日：相川湿地カスミサンショウウオ卵塊調査

カスミサンショウウオの卵回数を調査しました（図1）

湿地内では3対、湿地外で約50対の卵塊を確認しました。多くのカスミサンショウウオが継続して生息していることに安心しました。

4月12日：長崎市上大野地区世界遺産の両生類調査（図2・3）

上大野地区には、カワと呼ばれる共同水場がありました。今でも水の入っているカワの調査を行い、ニホンアカガエルの幼生、カスミサンショウウオの卵塊を確認することができました。世界遺産に登録されたことで、カワが整備され水場が維持されているからだと思います。

図1. カスミサンショウウオの卵塊 図2. 世界遺産大野地区のカワ 図3. ニホンアカガエルの幼生



2-1(2) 相川湿地、世界遺産上大野地区（5月）

4月に引き続き相川湿地での活動、世界遺産の他のカワ6か所の調査を実施しました。

5月4・11日：成長したニホンアカガエルの幼生を放流しました。両日あわせて約800匹です。（図4）

5月4日：世界遺産の看板にある3か所を調査しました。4月調査では1か所だけでしたが、残り2か所（図5・6）と看板にはない3か所を調査しました。4月調査分も含めて、2か所でニホンアカガエルの幼生を、1か所でカスミサンショウウオの卵のうを確認しました。看板にないカワは整備されておらず、ほとんど水がありませんでした。

図4. 幼体放流のようす



図5. 草木田のカワ



図6. 庄屋屋敷跡のカワ



2-(3) 長崎市田手原町(6月)

6月8日：長崎市田手原地区の小さな池の調査

田手原地区にある6か所の小さな池の両生類調査を実施した。(1)でニホンヒキガエルの幼生、(2)でカスミサンショウウオとニホンアカガエルの幼生、(6)でカスミサンショウウオの卵塊や幼生を確認することができた。

6か所の池は次のとおりである。

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| (1) 長崎女子短大中庭の池 (4929-0771) | (2) 田手原町道路脇の池 (4929-0792) |
| (3) 田手原町人家奥の池 (4929-0792) | (4) 英彦山登山道横の池 (4929-0792) |
| (5) 道路下の池 (4929-0792) | (6) 田手原町重簗民家の浦の池 (4929-0793) |

(2) の池



(4) の池



(5) の池



2-(4) 長崎市海岸周辺(7月)

7月12・13日：海岸の岩のすき間に生息するニシヤモリの調査

次の4か所を調査しました。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------|
| (1) 長崎市永田町黒崎の海岸 (4929-1597) | (2) 長崎市西出津町の海岸 (4929-2506) |
| (3) 長崎市神浦道徳町の海岸 (4929-2564) | (4) 長崎市為石町の海岸 (4829-7664) |
- (1)でニシヤモリの卵塊と成体、(2)でニシヤモリの成体、(3)でニシヤモリの卵塊と成体、(4)でニホンヤモリの成体を確認しました。

(1) の海岸の岩場



(3) のニシヤモリの卵塊



(2) のニシヤモリ



2-(5) 調査ができませんでした(8月)

8月は猛暑のため調査を中止しました。この分は2月に行いました。

2-(6) 長崎市黒浜ダム (9月)

9月28日：黒浜ダム周辺 (4829-7664・7654・7653)

ダム周回道路を歩いて調査しました。

両生類：ニホンアマガエル (鳴き声)

爬虫類：ニホンカナヘビ (成体)

哺乳類：イノシシ (あせり跡)、テン (糞)

黒浜ダム (堰堤から)



黒浜ダム最奥部の道路



ニホンカナヘビ



2-(7) 県道東長崎長与線の調査 (10月)

10月19日：県道東長崎長与線 (4929-1745・1755・1764・1774)

東長崎から長与にいたる東長崎長与線の滝の観音入り口から間ノ瀬までの道路沿いを調査しました。

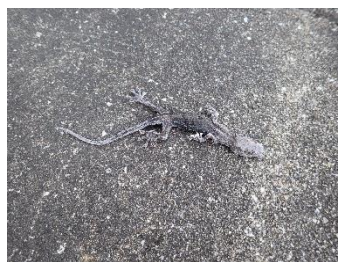
爬虫類：ニホンヤモリ

哺乳類：イノシシ (けもの道)、コウベモグラ (塚)、アナグマ (糞)、テン (糞)

間ノ瀬の集落



ニホンヤモリ (死体)



テンの糞



2-(8) 長崎市長里町多良見インター (11月)

11月23・24日：長崎市長里町多良見インター付近 (4929-1778・1777)

多良見インター周辺と諫早市との市境付近の調査

両生類：ツチガエル、ヌマガエル

哺乳類：コウベモグラ、カヤネズミ、イノシシ、イタチ属の一種

※ ツチガエル・カヤネズミは県市指定の絶滅危惧種 (NT)

長崎市と諫早市の境



ツチガエル



カヤネズミの球巢



2－(9) 長崎市相川湿地の整備作業（12月）

12月13日：相川湿地の整備作業を行いました。詳細は1－（1）の相川湿地の整備作業に書いています。

2－(10) 長崎市相川湿地ニホンアカガエルの卵塊調査（1月）

12月から2月にかけてニホンアカガエルの卵塊数を調査した。詳しいことは1－（2）の相川湿地の卵塊調査に書いています。

2－(11) 長崎市相川湿地での野外観察会（2月・8月末調査分）

2月上旬に4団体の野外観察会を実施しました。詳しいことは1－（3）に書いています。なお、8月分の調査もこの時期に実施しました。

2－(12) 長崎市相川湿地の保全（3月）

相川湿地の保全やニホンアカガエルの卵塊・幼生の保護、ニホンアカガエルの幼生飼育に取り組んでいます。

3月5日：相川湿地でカスミサンショウウオの卵塊調査と卵塊幼生の保護

両生類：カスミサンショウウオ・・・卵塊数約35対

アカハライモリ（成体） ニホンアカガエル（卵塊、幼生） タゴガエル（鳴声）

シュレーゲルアオガエル（鳴声）

カスミサンショウウオの卵塊



干上がったニホンアカガエル



新しい水路で卵塊救出の卵塊



3. まとめ

長崎市の自然を約 50 年間ずっと見つめてきました。この 50 年の間に長崎市を取り巻く自然環境は大きく変化してきました。宅地開発や道路建設などによる変化もありますが、一番大きいのは農林業の衰退です。特に、高齢化による水田の放棄は深刻なものです。多くの水田が放棄され荒れ地になり、わずかな耕作継続中の水田でも圃場整備が進み乾田化が進んでいます。長崎半島の水田はほとんど残っていないし、琴海町や外海町も放棄された水田が増え続けています。特に、両生類の産卵場として重要な谷間や山際の放棄が極端です。両生類は、産卵や幼生の成長に持続的な水場が必要です。山間の水田の耕作者のほとんどが高齢者であり、水田放棄は今後さらに進行していくと思われます。

両生類保全の取り組みを紹介します。長崎市相川町にある休耕田跡の湿地での保全活動です。長崎市と地元相川町自治会とニホンアカガエルを守る会の三者による保全活動です。21 年前から細々と継続していた活動は、ここ 10 年ほどの間に、三者の協力体制が強固になり活発な活動になりました。そして、令和 8 年度からは、NPO 法人環境政策教育研究所のもとセブンイレブン財団も活動に参加していただくことになりました。ますます、いい活動ができると思います。令和 7 年度の相川湿地の活動を簡単に説明します。例年通りに相川町自治会の方には、年間を通して湿地の管理をしていただきました。12 月初旬に全域の草刈りも自治会の仕事です。12 月 13 日に年 1 回の湿地全体に水を行き渡らせるための水路掘りを実施しました。今年のボランティア参加者は 48 名という多人数でした。整備された湿地でのニホンアカガエルの産卵は 12 月 21 日に始まり、卵塊数は 3 月末現在で約 800 個となっています。2 月には 4 団体約 100 名に野外観察会を実施しました。本物のカエルの卵塊との触れ合いは大変喜んでいただきました。卵塊数調査も例年通りに実施し、12 月中に約 100 卵塊、1 月中に約 300、2 月に入り 400 卵塊でした。今後も、湿地保全の取り組みを継続していきたいと思います。

年間を通して長崎の自然を調べてきました。両生類の調査が中心ですが、同時に、爬虫類や哺乳類も見えています。近年気になることが、ヘビ類を目にする機会が減ってきたことです。いつでも見ることができたシマヘビやヤマカガシすら目撃することが少なくなりました。長崎の自然に何かが起こっているのかもしれませんが。一方、イノシシは増え続け農林業に対する被害も大きくなっています。また、特定外来種であるアライグマが市内に侵入してきたことが分かっており、今後は、その増加により、農業被害も出てくるものと思われます。

野生生物の変化は何年もの間継続して調べることが大事です。今後も長崎の自然を調べながら、長崎の自然の現状を市民の皆さんに伝えていけたらと思っています。そして、長崎の自然について興味を持つ自然好きの人が増えてきたらいいなと思っています。

この長崎市が、人間だけでなく野生の動物にもすみやすい場所があることを願っています。